

日本体育科教育学会 第22回大会(桐蔭横浜大学)



2017
7.1 sat 2 sun

テーマ「新学習指導要領とこれからの体育授業の在り方を探る」

- 開催日時：平成29年7月1日(土)・2日(日)
- 会場：桐蔭横浜大学(スポーツ健康政策学部)
- 大会参加費：¥2,000(学生及び後援団体に関連する非会員¥1,000)
*学生の方は学生証をご持参ください。また、非会員の方の参加も可能です。
- 情報交換会：¥4,000
- 大会参加申し込み締切り：6月23日(金)
*当日参加も可能ではありますが、事前申し込みにご協力ください。

申し込み
方法

以下のURLの「申し込みフォーム」に必要事項をご入力の上、お申し込みください。
(3分程度の入力で簡単に申し込みができます)
<https://ws.formzu.net/fgen/S54563391/> (PC、スマホから)



主催 日本体育科教育学会

後援：スポーツ庁、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、横須賀市教育委員会
協賛：大修館書店、桐蔭横浜大学

全体スケジュール

●【1日目 7月1日(土) 13:00-16:40】 課題解決シンポジウム (大学中央棟 3階)

○全体会Ⅰ (大学中央棟 3階 C307)

- 13:00-13:05 シンポジウムの趣旨説明
- 13:05-13:25 新学習指導要領における体育科・保健体育科のポイント
- 13:25-13:45 体づくり運動授業のこれまでとこれから
- 13:45-14:05 陸上運動系授業のこれまでとこれから
- 14:05-14:25 ボール運動・球技系授業のこれまでとこれから
- 14:25-14:35 質疑応答

※14:35-14:50 休憩 (移動を含む)

○分散会 (大学中央棟 3階 C302・C303・C307)

- 14:50-15:50 3分散会 ※15:50-16:00 休憩 (移動を含む)

○全体会Ⅱ (大学中央棟 3階 C307)

- 16:00-16:15 分散会報告
- 16:15-16:35 質疑応答
- 16:35-16:40 総括

○情報交換会 (大学食堂)

- 17:00-19:00

●【2日目 7月2日(日) 9:00-12:10】 ラウンドテーブル (大学中央棟 1階・3階)

※本年度は2部制 (第一部: 9:00-10:30 第二部: 10:40-12:10) で実施いたします

会場	9:00-10:30	10:40-12:10
C301	①校内研修として行われる体育授業研究の役割： 日本における授業研究の役割と中国での授業研究の現状と課題	⑧体育・保健体育ネットワーク研究会 桐蔭横浜シュウマイラウンド
C302	②高等学校の保健体育授業におけるアクティブ・ラーニングの 取組 (第2報) 一柔道の授業における 主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業実践一	⑨小学校高学年における ハードル走の系統的な指導計画を考える
C304	③体育授業における戦術的認識の変容を考察する 一小学校中学年のフラッグ・フットボールの実践から一	⑩体育における「主体的・対話的で深い学び」を支援する ICT 利活用く未来の体育を創造するⅣ>
C305	④体育授業における「学び」と「評価」の一体化 一「本質的な問い」を視点にした授業づくりから一	⑪「主体的・対話的で深い学び」について考える 一 体育科における「対話的」ということの捉え方 一
C306	⑤教育現場における「体育」の意義と 経験主義的な指導内容・方法の現状と課題	⑫スポーツの本質をフットボール教材で探究する
C103	⑥相撲授業の可能性を考える 一相撲の行い方を体験しながら一	⑬組み立て体操における学習内容の検討 一学んだことがどのように他の運動に生かせるか
C106	⑦新学習指導要領に応じた体育の授業づくりについての提案 一体づくり運動及び陸上運動系 (投の運動) に着目して一	⑭教材・教具を工夫して攻防の楽しさを味わう 剣道の授業づくり

1日目（7月1日） 課題解決シンポジウム

■テーマ「新学習指導要領とこれからの体育授業の在り方を探る」

○司会：

吉永 武史（早稲田大学）・今関 豊一（日本体育大学）

○演者

高橋 修一 教科調査官 国立教育政策研究所（スポーツ庁政策課）

「新学習指導要領における体育科・保健体育科のポイント」

伊藤 久仁 先生 名古屋市立笹島小中学校

「体づくり運動授業のこれまでとこれから」

佐藤 善人先生 東京学芸大学教育学部

「陸上運動系授業のこれまでとこれから」

大友 智 先生 立命館大学スポーツ健康科学部

「ボール運動・球技系授業のこれまでとこれから」

○テーマ設定の趣旨：

2017（平成29）年3月31日に、小学校ならびに中学校の新しい学習指導要領が告示された。その「第1章 総則」には、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること」が示された。このことを踏まえて体育科・保健体育科では、①「知識及び技能」、②「思考力、判断力、表現力等」、③「学びに向かう力、人間性等」の枠組みによって目標及び内容が示された。

前回の第21回大会では、「『思考力・判断力・表現力』からみた体育授業研究の実践の成果」というテーマで課題研究シンポジウムを開催した。その結果、シンポジウムの主な課題として、以下の2点があげられた。

- ① 「思考・判断」の学習の前提には「技能」に関する内容をどのように設定するかということがあるはず。技能を身に付けるプロセスで、生徒に発問を投げかけたり、ゲームに関するデータを収集して課題を見付けたり、ICTを活用してパフォーマンスを撮影し、動作の改善に向けた課題を生徒同士で見付けたりしていく。このような学びの姿が十分には見えなかったため、もう少し「技能」と「思考・判断」の学習の関連付けを具体的に明示すべきであった。
- ② 資質・能力で主張されている「思考力・判断力・表現力等」が、「知識・技能」や「学びに向かう力・人間性等」とどのように関連しているのかが曖昧なままであった。

そこで第22回大会では、新しい学習指導要領の内容（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」のいずれの枠組みについても）を整理しながら、これからの体育授業の在り方について検討する課題研究シンポジウムを開催することとした。

2日目(7月2日) ラウンドテーブル

※会場は本プログラム巻末の「会場案内図」を参照ください

■第一部(9:00-10:30)

①校内研修として行われる体育授業研究の役割： 日本における授業研究の役割と中国での授業研究の現状と課題

○提案者

木原成一郎(広島大学)・大後戸一樹(広島大学)・齊藤一彦(広島大学)・岩田昌太郎(広島大学)・久保研二(島根大学)・村井潤(武庫川女子大学)・加登本仁(滋賀大学)・嘉数健悟(中縄大学)

○設定趣旨

日本の授業研究は、1990年代以降、Lesson Studiesとして世界各国に広がり、算数・数学科や理科、社会科等の授業改善及び教師の成長の方法として普及している一方、校内研修としての体育の授業研究は十分に普及していない。

第2次大戦後の日本の体育の授業研究は、1950年代以降に教師と大学教員が共同で授業やカリキュラムを開発する民間教育研究運動として展開した。また、1970年代以降大学教員が授業の記録や観察結果を定量的に分析する授業研究も進められた。同時に、法的拘束力を持つとされる1958年以降の学習指導要領を理解し実践する方法として、学校の校内研修や地域の教員研修としても授業研究は進められてきた。

学校体育研究同志会や全国体育学習研究会等の民間教育研究運動は、独自の体育理論に基づき多様な指導法や教材、カリキュラムの開発を行っている。また大学教員の行う授業研究は、どの教師でも一般的に活用できる体育授業改善の理論や知識を開発してきた。これに対し、校内研修として行われる体育の授業研究は、体育授業の考え方を学校内の同僚間で共有し、大綱的基準である学習指導要領を一定の水準で実践に具体化する力量を教師に育成する役割を果たしてきた。

本ラウンドテーブルは、昨年の中国と東南アジアでの校内研修としての授業研究の現状報告に続く企画である。今回は、第1に日本の体育授業研究の展開における校内研修としての授業研究の意義を報告いただき、第2に中国の初任者研修として行われた体育授業研究を対象に、小学校体育専科教員の省察能力の変化を報告いただく。

日本で行われてきた校内研修としての授業研究と中国で行われている研修としての授業研究の進め方や育成しようとする力量の共通点や相違点を理解することを通して、我々の求める校内研修としての体育授業研究の役割を明らかにしたい。

②高等学校の保健体育授業におけるアクティブ・ラーニングの取組(第2報) —柔道の授業における主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業実践—

○提案者

森田明(北海道札幌西高等学校)・堀川政彦(北海道北広島高等学校)・森田有(北海道北広島高等学校)・長尾正(北海道札幌西高等学校)・佐藤亮平(北海道大学大学院教育学院)・近藤雄一郎(北海道大学大学院教育研究部)・吉野洸平(北翔大学大学院)・早坂恭亮(北翔大学大学院)・石井由依(北翔大学大学院)・梅田千尋(北海道小平高等養護学校)・竹田唯史(北翔大学)

○設定趣旨

2017年3月31日に新しい小・中学校学習指導要領が告示され、高等学校についても、今年度内に告示する予定で改訂作業が進められている。2016年8月に公表された次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめにおいては、「学び」の本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善が必要であることが示されており、今後は、高等学校の保健体育の授業においても、こうした視点からの指導方法の改善・充実が求められることとなる。

昨年、第1報では、高等学校の「体育」と「保健」の授業において、生徒自らが課題を発見・解決できるような発問等に着目し、知識や技能を活用して他の生徒と協働しながら主体的に自らの考えを広げ深めていく学習活動を展開していくための指導プログラムの実践について報告したところであるが、「主体的・対話的で深い」学びの実現に向けては、アクティブ・ラーニングの視点からの指導方法の改善・充実を継続的に研究していくことが必要であると考えた。

今回の本報告では、2016年11月～12月に共同研究者が勤務する高等学校の「体育」の授業において「柔道」を選択した28名を対象として、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」などのアクティブ・ラーニングを指導過程に位置付けた実践と評価について報告する。参加者と交流する中で今後の高等学校の保健体育の授業の在り方について議論を深めたい。

③体育授業における戦術的認識の変容を考察する —小学校中学年のフラッグ・フットボールの実践から—

○提案者

小谷渉(島根大学)・廣兼志保(島根大学)・伊藤豊彦(島根大学)

○設定趣旨

本研究の目的は、小学校中学年のボール運動の学習における戦術的認識の変容についての考察を、フラッグ・フットボールの授業実践により得られた様々なデータ分析を通して検討することである。児童の戦術的認識が、どのように獲得されていくのか、その過程を明らかにすることは、単元構成や教材の工夫につながり、運動課題の解決に向けて、児童が考え、判断する学びの過程を重視した授業作りへと結実すると思われる。

そこで、本ラウンドテーブルでは、授業実践を通して得られた児童の感想文及び作戦図、実際のプレーを撮影した動画等を資料として提示し、参加者の皆さん

とともに、児童の革新的認識が単元全体を通してどのように獲得されているのか議論を深めたい。

④体育授業における「学び」と「評価」の一体化 —「本質的な問い」を視点にした授業づくりから—

○提案者

原祐一（岡山大学）・松本大輔（西九州大学）・宮坂雄悟（尚美学園大学）・木村翔太（東京学芸大学附属世田谷小学校）

○設定趣旨

「スポーツは遊びである」という命題は、従前から指摘され続けてきた。にもかかわらず、教育という文脈においては、その捉え方は大きく変容してしまう。次期学習指導要領の基本的な考え方であるアクティブ・ラーニングには、この命題が極めて重要となる。なぜなら、教育者側の論理ではなく、学習者側の論理から学びを構成していかなければならないからである。運動文化やスポーツ文化を学ぶ体育授業だからこそ、改めてプレーヤー側の論理から学びを捉え、さらにそれを評価していく視点が必要なのではないだろうか？そこで、本ラウンドテーブルでは、「私たちがスポーツに遊ぶ時、どのように本質的な問いを持ちながらプレーしているのか？」という「問い」を視点に体育授業における「学び」と「評価」について実践と理論を融合させながら考えてみたい。

具体的には、実際の授業実践を共有しながら、本質的な問いをもとにした体育授業が如何に設計されるのか、またその際に子どもたちの学びはどのように構成されるのか、さらにそれらはどのように文脈やフレームが構成されているのかについて議論を深めた後に、評価の問題を考えてみたい。状況や文脈から切り離さずに学びをどの様に評価すればよいのかについて「指導と評価の一体化」ではなく、「『学び』と『評価』の一体化」という視点から検討を深めることとする。

⑤教育現場における「体育」の意義と経験主義的な指導内容・方法の現状と課題

○提案者

岡井理香（神戸大学附属中等教育学校）

○設定趣旨

現在、保健体育科領域における教育においては、自他の運動や健康に対して自ら課題を発見し、その課題解決に取り組む学習の必要性や、自己の適性等に応じた『する・見る・支える・知る』の多様な関わり方を学ぶことの重要性が示唆されている。しかしながら、学習指導要領において、教科教育としての共通の目標や方向性が示されたとしても、実際の教育現場では多様な教育観の下、個々の教員によって異なる授業が日々展開されている。本ラウンドでは、提案者が中等教育期の教育機関において直面している諸課題を皮切りに小集団活動を行い、“自立&自律した運動者”を育てるための学校体育のあり方について考える。

⑥相撲授業の可能性を考える —相撲の行い方を体験しながら—

○提案者

小出高義（北海道教育大学旭川校）

○設定趣旨

武道の指導といえば、師範が弟子達に技の確認をしながら、一斉に同じ技を行わせるといったイメージが強い。この武道を体育授業というフレームに落とし込んだとき、どのような授業づくりが求められるのであろうか。

少し前にはなるが、中学校の体育授業における武道必修化以前、武道経験のない体育教師はどのように指導したらいいのかとか、柔道に代表される安全面の確保はどうしたらいいのかなど、様々な不安材料について議論されたことが思い出される。その後、それらの不安が払拭されるような授業実践から、体育授業において子どもたちは、生き生きと武道の学習に取り組んでいるのであろうか。

ところで、体育の授業を実施する際、施設・用具の条件を考慮しなくて良いのであれば、柔道、剣道、相撲のうちからどれを選びますか。今回は、武道の中でも見落とされがちな相撲における授業づくりの可能性について、ご参会の皆様と検討を加えたい。

そのため、参加いただく方には、Tシャツと短パンの上から簡易まわしをつけて、相撲の所作をまず体験していただく。さらに、相撲授業の実践報告から、意見交換し研究を深められたらと願う。

⑦新学習指導要領に応じた体育の授業づくりについての提案 —体づくり運動及び陸上運動系（投の運動）に着目して—

○提案者

陳洋明（大阪体育大学）・池田延行（国土館大学）・石塚真子（大阪体育大学）・松崎鈴（国土館大学）

○設定趣旨

平成29年3月、小・中学校の新学習指導要領が告示された。本大会において、「新学習指導要領とこれからの体育授業の在り方を探る」というテーマでシンポジウムの企画がなされていることから、新学習指導要領に応じた「体づくり運動」及び「陸上運動」の授業づくりについての提案をしていきたい。

まず、新学習指導要領では、小学校高学年、中学校1、2年段階の体づくり運動において、「体力を高める運動」が、「体の動きを高める運動」と名称が変更されたことに加え、内容の取扱いとして、「音楽に合わせて運動するなどの工夫を図ること」が示された。本ラウンドテーブルでは、どのような楽曲に合わせて運動を指導していけば、児童生徒が運動への意欲や関心を高めたり、体の動きを高めたりすることができるのか、これまでの提案者の取り組みを手がかりに検討していきたい。

次に、小学校の陸上運動系では、低・中・高学年の内容の取扱いにおいて「児童の実態に応じて、投の運動を加えて指導することができる」と示され、これまで走・跳の運動で構成されていた陸上運動系において新たに「投」が加わった。本ラウンドテーブルでは、実際、投の運動の授業を単独で実施する時、どのような教材・教具を取り入れ、単元を構成していくのか、児童の投能力を高めるためにはどのような指導内容を検討すべきか、共に議論していきたいと考えている。

2日目(7月2日) ラウンドテーブル

※会場は本プログラム巻末の「会場案内図」を参照ください

■第二部(10:40-12:10)

⑧体育・保健体育ネットワーク研究会 桐蔭横浜シュウマイラウンド

○提案者

佐藤豊(桐蔭横浜大学)・友添秀則(早稲田大学)・高橋修一(国立教育政策研究所)・吉野雅(茨城大学)・本多壮太郎(福岡教育大学)・清水将(岩手大学)・日野克博(愛媛大学)・椛ちかこ(鹿屋体育大学)・木原慎介(東京国際大学)

○設定趣旨

本研究会は、2011年に九州で誕生し、小中高教員、指導主事経験者、大学教員、学生等の参加で活動を始めた。今年度も、北海道・東北地区、中国・四国地区、関西地区等での20回程度の開催が予定されている。これまで、会員間の穏やかでフラットな関係性を担保する中で、体育科・保健体育科の授業づくりについての成果や日頃の悩み(行政情報、学習評価、教材開発等)について、意見交換、ワークショップ、実践報告に加え、米英豪台韓研究者との相互交流を通して、情報を共有するシステムづくりに関する研究を発表者らと進めてきた。本研究会のねらいとして、日本では、文部科学省→都道府県政令都市教育委員会→市町村教育委員会→学校体育関係主任という学習指導要領伝達システムが機能しているものの、段階が進むにつれ情報が伝わりにくいという悩みや伝達者の情報交換が少ないこと、学校現場の悩みや優れた実践等が国に伝わりにくい等の意見も見られたことから、こうした従来型システムの補完機能を果たす広域ネットワークの構築を目指した。本ラウンドでは、2011～2016年度の活動を紹介し、教員、行政、大学等の持続可能な広域連携の在り方について、本学会に参加した会員、非会員、学生との意見交換を進めたい。

⑨小学校高学年におけるハードル走の系統的な指導計画を考える

○提案者

森田哲史(埼玉大学教育学部附属小学校)

○設定趣旨

本研究の目的は、小学校高学年の体育授業における2年間を見通したハードル走の系統的な指導計画を開発することである。現行学習指導要領(文部科学省、2008)における高学年2学年間の内容のまとまりを基に2年間を見通した指導計画案を作成して実践を行った。その指導効果を科学的に検証し、次期学習指導要領(文部科学省、2017)改訂後の各学校での年間指導計画作成の参考となる指導計画の一部を提案する。詳細は、当日報告する。

⑩体育における「主体的・対話的で深い学び」を支援するICT利活用 <未来の体育を創造するIV>

○提案者

大熊誠二(東京学芸大学附属竹早中学校)・鈴木直樹(東京学芸大学)・伊佐野龍司(日本大学)・石塚諭(宇都宮大学)・成家篤史(帝京大学)・鈴木一成(愛知教育大学)・野口由博(港区立青南小学校)・石井幸司(江戸川区立新田小学校)・太田泰貴(さいたま市立蓮沼小学校)・阿部隆行(東京学芸大学)

○設定趣旨

平成29年3月に公示された学習指導要領の内容には、体育・保健体育の指導にあたり、コンピュータや情報通信ネットワークなどの積極的な活用が示されている。また、プログラミング教育が小学校で必修化され、教科横断的にこの内容に取り組むことが示されている。すなわち、現代では学校教育全体を通じて情報活用能力を育成することが求められている。このような状況下において、本研究グループでは、平成26年度から平成28年度にかけて体育で利活用可能なアプリケーションの開発とその活用を実証的に研究してきた。

この研究を通して、「主体的・対話的で深い学び」を支えることができるタブレットのアプリケーションを開発すると共に、ICTの利活用によって「学習者の学び」と「教師の指導」の転換を導くことができた。具体的には、1)体育におけるICTの利活用として適切な場面、2)体育におけるICTを利活用する際の原則、3)体育におけるICT利活用の系統性を明らかにすることができた。これは、「どのように学ぶか」という「主体的・対話的で深い学び」に対する研究成果ともいえる。

そこで、本ラウンドテーブルは、これまでの研究成果を通して超高度情報化社会における「主体的・対話的で深い学び」のデザインを描き、授業に新たなコミュニケーションを生み出す協働的な学びの場を創造するために設定した。当日は、体育におけるICT利活用を支える基本的な考え方を示した上で、具体的な授業実践を紹介し、ICT機器に具体的に触れながら、討議していく参加型のラウンドテーブルにしていきたい。

⑪「主体的・対話的で深い学び」について考える — 体育科における「対話的」ということの捉え方 —

○提案者

石垣健二(新潟大学)・楡皮貴子(新潟大学)・大滝健太郎(胎内市立中条小学校)

○設定趣旨

先ごろ示された新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が謳われた。そこで意味される「対話的」とは、体育科において一体どのように捉えられるべきだろうか。他者との対話・かわり・コミュニケーションなど人間関係論にかかわる問題は、現代社会に喫緊の課題である。それらの諸問題を念頭におきながら、本ラウンドテーブルでは、この「対話的」という観点の捉え方について議論できないかと考えている。

提案者側は、「対話的」という観点から、これまでの体育授業（論）を概観しながらその限界を指摘するとともに、その限界を乗り越えるための視点として「身体的対話」や「身体的な感じ」という概念を提示する(①)。次に、それらの「身体的対話」や「身体的な感じ」が、具体的にどのような子どもたちの姿として現れるのかを、実際の体育授業（体づくり運動の授業実践映像）を見ながら検討する(②)。そして、体育授業に独自の「身体的対話」を企図した授業実践試案について報告するとともに(③)、②③の実践を簡単に体験する機会を設ける。これらの提案に対する批判を通して、体育科における「対話的」ということの捉え方について議論を深めたい。

⑫スポーツの本質をフットボール教材で探究する

○提案者

齊藤慎一（東京都杉並区立馬橋小学校）・大貫耕一（和光大学）

○設定趣旨

スポーツの教育において、スポーツの特質（競争/協同関係）やスポーツの成り立ちを教えるために、サッカーの原点である民俗フットボールを教材化した。そして、民俗フットボールの特質である自由で未組織なゲームを子どもたちが体験的に学ぶことで、民俗フットボールの価値や規範・ルールについて考えさせた。この結果、民俗フットボールの学びからスポーツの特質や成り立ちについて探究することで、子どもたちは自分たちにとってのスポーツの意味を考えることができた。ラウンドテーブルでは、このフットボール教材の実践を通して、体育科における「スポーツの教育」について参加者の皆さんとともに探究したい。

⑬組み立て体操における学習内容の検討 - 学んだことがどのように他の運動に生かせるか

○提案者

原田奈名子（京都女子大学）

○設定趣旨

「組（立）体操」が崩れる映像の流布以来、雑誌「体育科教育」で特集が組まれるなど、これをめぐる議論が興隆した。昨年度日本体育学会にて、測定評価領域が、「『組（立）体操』問題の事例から見える未来」と題し、実技講習も行った。そこでは学習内容への言及はなかった。原田は「運動器に関する検診」の研究の一環として、例えば、関節の位置や構造に対する知識を修正しただけでも検診結果が改善することを確認してきた。今回は腕支持姿勢を学ぶことがどのように他の学習に役立つか、参加者と議論を共有したい。動ける服装で参加ください。

⑭教材・教具を工夫して攻防の楽しさを味わう剣道の授業づくり

○提案者

柴田一浩（流通経済大学）・福ヶ迫善彦（流通経済大学）・吉野総（茨城大学）・三田部勇（筑波大学）

○設定趣旨

剣道は、竹刀を用いて相手と攻防しながら「有効打突」を競い合う運動である。つまり、常に攻撃と防御が起こりえる競技特性を有している。そのため、剣道の授業では、技の学習で打突する動きを身に付けても試合で生かすことができません。攻防の楽しさを十分に味わうことができないまま単元が終了してしまうことが少なくない。

これは、岩田ら(2009)が指摘しているように、「いつ、どの部位を、どのように打てばよいか」という攻撃の判断的側面が剣道の重要な学習課題であり、本質的な面白さであるにもかかわらず、この点を理解させる効果的な教材が十分に検討されてきていない。

そこで、相手の動きを予測(よみ)・判断しやすくするために、打突の部位と攻撃回数を制限し、攻撃と防御を交互に学習させる攻防交代型の教材を設定した。

また、剣道具の着脱の時間を短縮するために、発泡スチロール材で作成した簡易竹刀を2種類開発した。

このような教材や教具を活用した中学1年生と2年生対象のそれぞれ10単位時間の授業実践の成果と課題を紹介するとともに、実技を通して教材・教具の有効性について検討する。

参加者へのお知らせ

●受付

中央棟 3 階に受付を設けます。事前申込みをされた方はネームカードをお受け取り下さい。当日申込みの方は参加費をお納め頂き、ネームカードをお受け取り下さい。大会期間中は、随時受け付け致します。

●ネームカード

氏名および所属を記入の上、会場では必ずご着用下さい。

●プログラム

学会員の方には会場でプログラムは配布いたしませんので、事前に郵送されたプログラムを当日ご持参ください。

●昼食

学会期間中、1 日（土）は「交流会館」（プログラム巻末参照）にて食堂、コンビニが営業（～13:30）しておりますが、2 日（日）は営業しません。飲食店、コンビニエンスストアなど、徒歩ですと距離的に若干遠くなってしまう。

●クローク

クロークは、桐蔭横浜大学中央棟 3 階に設けます。ご利用ください。ただし、貴重品のお預かりは致しかねますので、各自でご管理ください。

会場校からのお願い

- 喫煙については、大学敷地内では「法学部棟」（プログラム巻末参照）1 階の指定された場所のみとなっております。ご理解のほどよろしくお願い致します。
- 1 日（土）の休憩室（兼打ち合わせ室）は大学中央棟 3 階（304 教室・305 教室）です。適宜利用ください。
- 各教育委員会並びに民間教育研究団体等の主催する大会や研修会、小中高等学校の公開研究会等の案内については、本学会の公正性、並びに参加者への情報提供の視点を鑑みて、個人の責任で配布をお願いいたします。その際、次の4点に留意してください。
 - ① 大会実行委員会としては配布に対して、一切、関知いたしません。
 - ② 受付や出入り口は混み合いますので、その周辺での配布はご遠慮願います。
 - ③ 残部は配布者が必ず持ち帰ってください。
 - ④ この措置は、今大会に適用されるものであり、次回の会場校の方針には影響しません。
- 出版社や教具関係の企業等につきましては、事前に申し込みをしていただき、指定された場所のみによる販売をお願いいたします。また、各個人による書籍等の販売は、すべて個人の責任で行ってください。なお、この措置は今大会に適用されるものであり、次回の会場校の方針には影響を及ぼしません。

その他、各種お問い合わせは・・・

<日本体育科教育学会第 22 回大会実行委員会>

実行委員長：松本 格之祐（桐蔭横浜大学） 事務局長：佐藤 豊（桐蔭横浜大学）

E-mail : jsppe22@gmail.com（日本体育科教育学会第 22 回大会）

TEL & FAX： 045-974-5265（木原研究室直通）

住所：〒225-8503 神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614 番地

桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部スポーツ教育学科 木原研究室

本村清人 [著]

「知・徳・体」を育む 学校体育・スポーツの力



●四六判・210頁
定価=本体1,500円+税

高校保健体育教師、教育委員会指導主事、さらには文部科学省体育官といったさまざまな立場で学校体育・スポーツに関わってきた著者が、これまでの学習指導要領の作成経緯や教育理念をわかりやすく解説。改めて学校体育・スポーツの重要性を説き、その担い手である保健体育教師に激励の言葉を贈る。保健体育教師はもとより、学校長、指導主事にとっても貴重な1冊。

【主要目次】序章 スポーツ庁の設置と学校体育・スポーツの発展／第1章 「体育」「スポーツ」の位置づけと学習指導要領／第2章 教育理念「生きる力」と学校体育・スポーツ／第3章 「知・徳・体」を育む授業の要／第4章 学校体育の現場を支える人材の重要性／第5章 教育活動の一環である運動部活動の意義／終章 学校体育・スポーツの力

コアとなれ、学校体育・スポーツ！

Introduction to School Health Education

保健科教育法 入門

日本保健科教育学会●編
●B5判・194頁 定価=本体1,700円+税

- 保健科教育を学ぶ学生及び教師のためのスタンダードテキスト。保健科教育の基礎知識に始まり、良い授業の考え方・作り方、指導案の書き方、教授技術、学習評価、授業展開例に至るまで多岐に渡る内容をカバーし、初学者にやさしい説明を心がけている。小・中学校の新学期指導要領にも対応した画期的な入門書。

良質な保健授業の 創出に向けて



【主要目次】第1章 保健科教育とは何か…学校における保健科教育の位置づけ／我が国における保健科教育の歩み／諸外国の保健教育／第2章 保健の授業をつくる…良い保健授業の姿をイメージしよう／学習目標を設定しよう／学習内容を理解しよう／教材を準備しよう／授業スタイルを考えよう／指導の計画を立てよう／教授行為のテクニックを磨こう／評価を工夫しよう／模擬授業をやってみよう／第3章 保健授業の展開例…小学校／中学校・高等学校／第4章 教育実習に当たって…教育実習の目的と概要、事前準備／教育現場での留意事項と事後の心得／第5章 保健科教育の勉強を更に進めよう…書籍やウェブなどから更に学ぼう／研究会に参加して実力を高めよう／保健科教育を学問として学んでみよう

大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1 ☎03-3868-2651 (販売部)
<http://www.taishukan.co.jp>

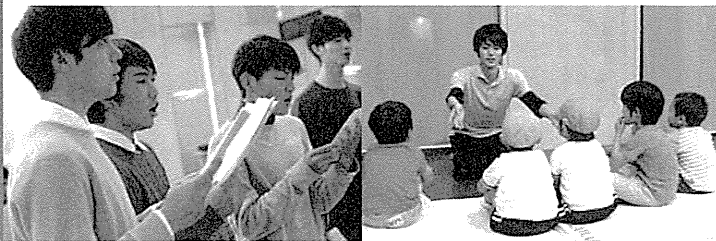
【桐蔭横浜大学の学び】

スポーツ健康政策学部では、スポーツを文化の一つと捉え、からだ・スポーツが持つ可能性を探り、広げていくことを目指します。スポーツの力を活かして社会に貢献していく人材を育てるユニークな3つの学科があります。

エンターテインメント、福祉、教育、ビジネスなど、さまざまな分野とスポーツを結び付けることで、これまでの概念を超えた新たな価値が生まれます。

スポーツ教育学科

小学校教員免許を取得できる本学科では、子どもたちをスポーツ好きにする教育方法の修得を目指します。からだを動かすことの魅力を知れば、より実のある大学生活に変わるはずだからです。

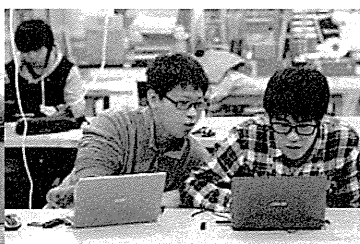


▶ 目指す進路・資格

小学校教諭1種免許状／中学校教諭1種免許状(保健体育)／高等学校教諭1種免許状(保健体育)／健康運動実践指導者^{※1}／スポーツリーダー(日本体育協会スポーツ指導者資格)／障がい者スポーツ指導者(初級スポーツ指導員)／スポーツクラブマネジャー(日本スポーツクラブ協会資格) など

スポーツテクノロジー学科

スポーツはもちろんのこと、医学・工学さらには科学技術に至る幅広い分野のテクノロジーを学ぶことを通じて、「からだ」×「科学」の可能性を探っていきます。



▶ 目指す進路・資格

中学校教諭1種免許状(保健体育)／高等学校教諭1種免許状(保健体育)／健康運動実践指導者^{※1}／スポーツリーダー(日本体育協会スポーツ指導者資格)／障がい者スポーツ指導者(初級スポーツ指導員)／スポーツクラブマネジャー(日本スポーツクラブ協会資格)／JATI認定トレーニング指導者資格^{※1}／ITパスポート など

スポーツ健康政策学科

実践型授業をとおして、人とスポーツの関わりを見つめ直します。マネジメントやビジネス、健康など多角的にスポーツ文化の可能性を学びます。



▶ 目指す進路・資格

中学校教諭1種免許状(保健体育)／高等学校教諭1種免許状(保健体育)／健康運動実践指導者^{※1}／スポーツリーダー(日本体育協会スポーツ指導者資格)／障がい者スポーツ指導者(初級スポーツ指導員)／スポーツクラブマネジャー(日本スポーツクラブ協会資格) など

※1 受験資格が取得できます。



法学部
◆法律学科



医用工学部
◆生命医工学科
◆臨床工学科



スポーツ健康政策学部
◆スポーツ教育学科
◆スポーツテクノロジー学科
◆スポーツ健康政策学科



学校法人 桐蔭学園
桐蔭横浜大学

お問い合わせ
交通クセナ

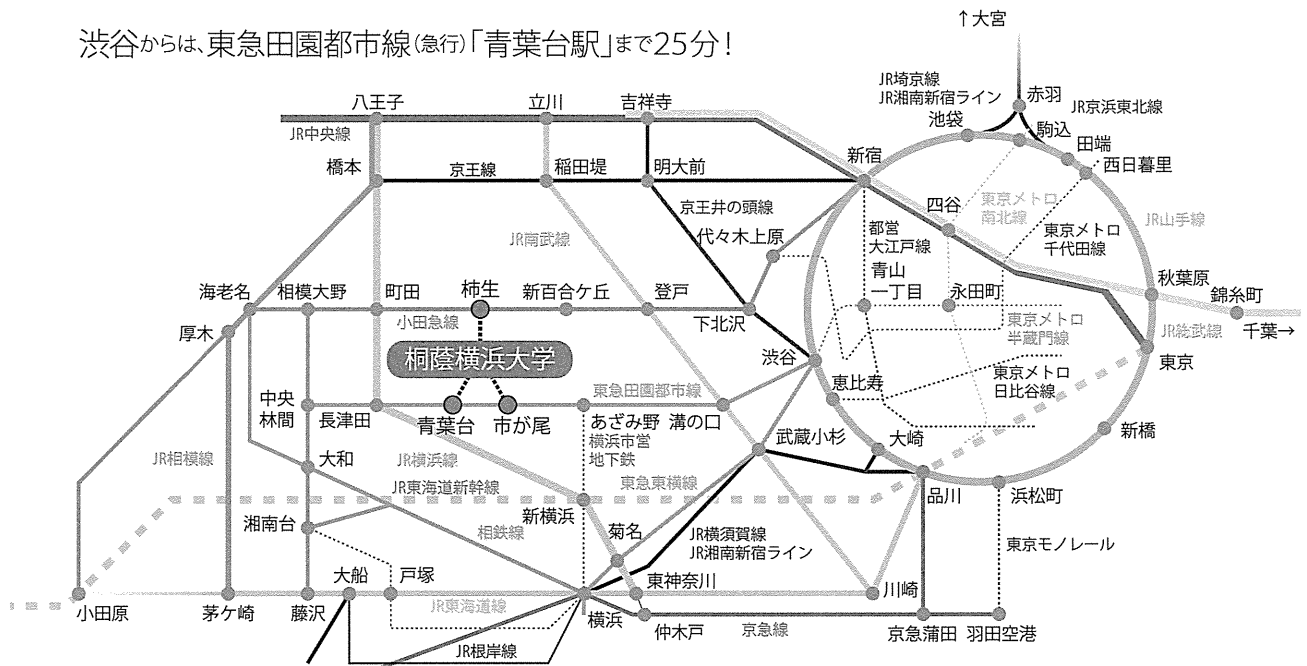
入試・広報センター

〒225-8503 神奈川県横浜市青葉区鉄町1614番地
TEL) 045-974-5423 (直通) [FAX] 045-972-5972
[URL] <http://toin.ac.jp/univ> [E-mail] nkc@toin.ac.jp

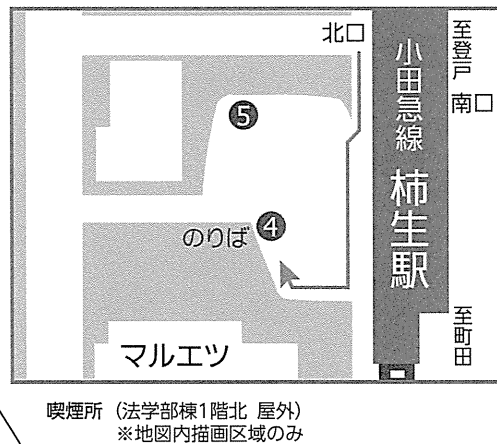
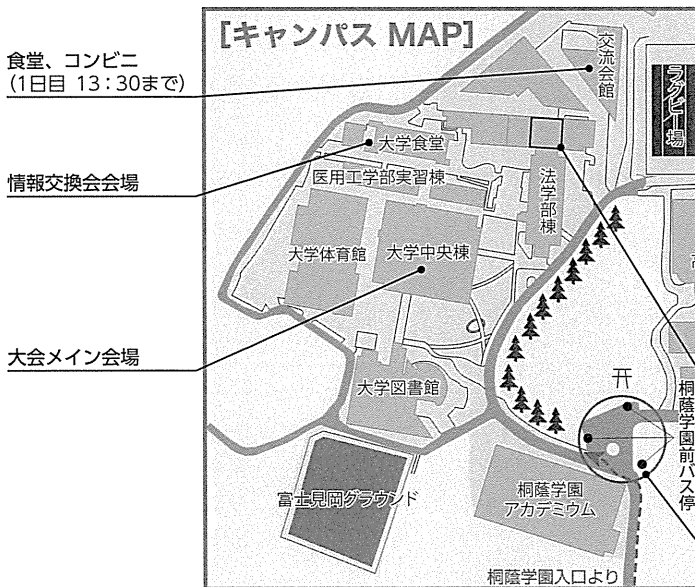
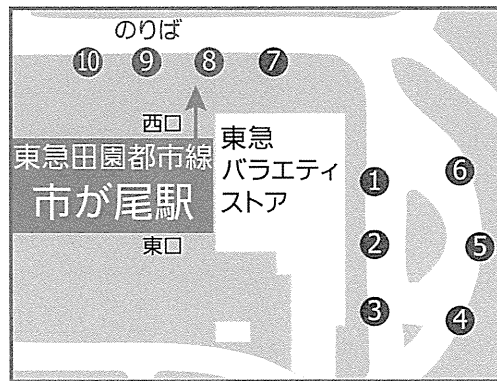
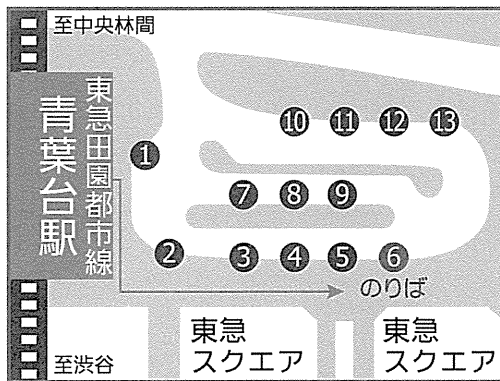
- 東急田園都市線・青葉台駅からバスで約15分
- 東急田園都市線・市が尾駅からバスで約15分
- 小田急線・柿生駅からバスで約15分



渋谷からは、東急田園都市線(急行)「青葉台駅」まで25分!



●駐車場はありません。原則として、交通公共機関でおこください。



<会場までのアクセス>

※所要時間は交通状況により異なります

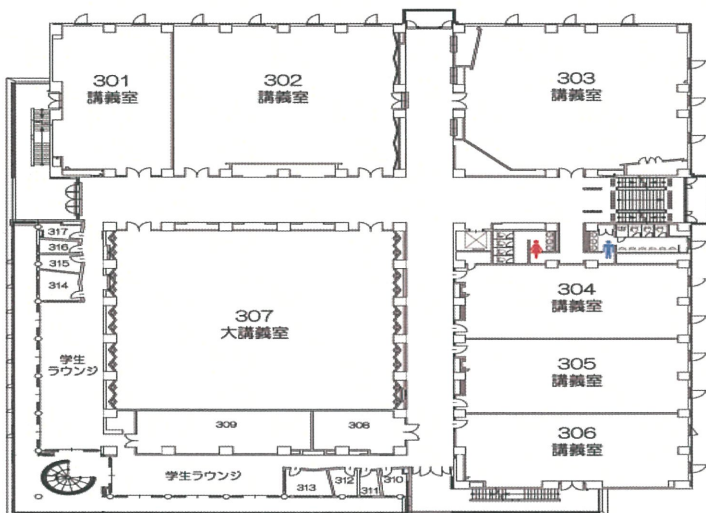
- 渋谷より
田園都市線『市が尾駅』下車 (各駅停車35分)+バス
田園都市線『青葉台駅』下車 (急行25分)+バス
- 新宿より
小田急線『柿生駅』下車 (急行35分)+バス
- 横浜より
JR横浜線『長津田駅』(25分)のりかえ田園都市線『青葉台駅』
下車 (急行3分、各駅停車5分)+バス

- 新横浜より
JR横浜線『長津田駅』(15分)のりかえ田園都市線『青葉台駅』
下車 (急行3分、各駅停車5分)+バス
横浜市営地下鉄『あざみ野駅』(20分)のりかえ田園都市線
『市が尾駅』下車 (各駅停車5分)+バス

会場案内図

大学中央棟3階（1日目シンポジウム / 2日目ラウンドテーブル（実技なし））

■ 大学中央棟 [C棟] [3階]



シンポジウム

13:00-14:35 全体会Ⅰ【307 教室】

14:50-15:50 3分散会

- ・体づくり運動【302 教室】
- ・陸上運動【303 教室】
- ・ボール運動【307 教室】

16:00-16:40 全体会Ⅱ【307 教室】

※休憩・談話室 【304 教室・305 教室】

※シンポジスト控室 【301 教室】

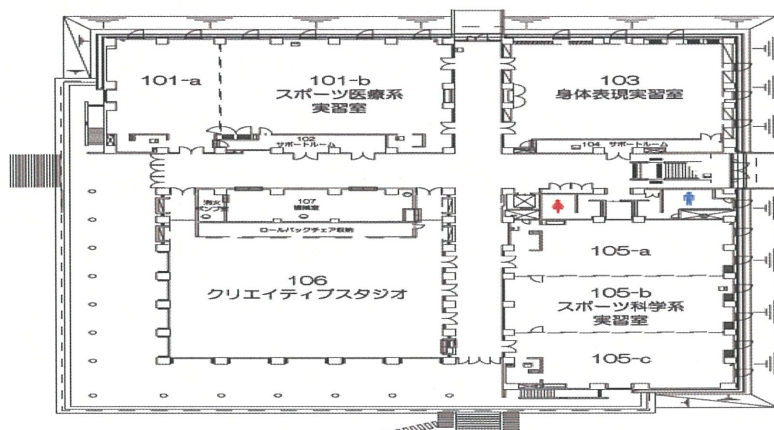
※理事会会場【306 教室】

※大会本部・クローク 【学生ラウンジ】

会場	ラウンドテーブル (9:00-10:30)	ラウンドテーブル (10:40-12:10)
C301	①校内研修として行われる体育授業研究の役割	⑧体育・保健体育ネットワーク研究会
C302	②高等学校の保健体育授業におけるアクティブ・ラーニングの取組 (第2報)	⑨小学校高学年におけるハードル走の系統的な指導計画を考える
C304	③体育授業における戦略的認識の変容を考察する	⑩体育における「主体的・対話的で深い学び」を支援するICT 利活用
C305	④体育授業における「学び」と「評価」の一体化	⑪「主体的・対話的で深い学び」について考える
C306	⑤教育現場における「体育」の意義と経験主義的な指導内容・方法の現状と課題	⑫スポーツの本質をフットボール教材で探究する

大学中央棟1階（2日目ラウンドテーブル（実技あり））

■ 大学中央棟 [C棟] [1階]



会場	ラウンドテーブル (9:00-10:30)	ラウンドテーブル (10:40-12:10)
C103	⑥相対授業の可能性を考える	⑬組み立て体操における学習内容の検討
C106	⑦新学習指導要領に 応じた体育の授業づくり についての提案	⑭教材・教具を工夫して 攻防の楽しさを味わう 剣道の授業づくり